



Special Olympics

2016年度 ルール変更 対照表

競技名:柔道

変更前の内容	変更後の内容
	ルール変更対照表には、内容の変更があった箇所のみ記載しています。
環軸椎不安定(亜脱臼)性のダウン症アスリートは原則柔道プログラムに参加することは出来ない。より詳しい情報やこの制限を放棄する手順については、SO スポーツルール第 I 章 総則 補足 F を参照のこと。	<削除>
セクション B – ディビジョニング このテストはトレーニングセッション※を利用して、ディビジョニング委員と畳スーパーバイザーが一緒に行い、プレディビジョニングが適したものかどうかを確認する。	3. ディビジョニング 3.3 個人スキル 3.3.2 このテストはトレーニングセッション※を利用して、ディビジョニング委員と畳スーパーバイザーが一緒に行い、プレディビジョニングが適したものかどうかを確認する。このトレーニングセッションは、アスリートにとって、遊びの感覚や初めての仲間との出会う喜びを共有する楽しい時間であればなりません。
セクション C – 競技ルール 11. 立技、寝技の両方において、審判員は、アスリートの首に負傷を引き起こすような状態でロックされていないことを確認すること。	4. 競技ルール 4.4 開始の姿勢 4.4.8 立技、寝技の両方において、審判員は、アスリートの首に負傷を引き起こすような状態でロックされていないことを確認すること。「立技」と「寝技」の両方において、脊椎ではなく首を絞めると「待て」がかかります。
セクション C – 競技ルール 13. 柔道着及び帯 b. 両アスリートの区別のため、主催者が様々なサイズで用意した赤と白の帯を腰部に締める。試合中、アスリートは他の帯を締めてはならない。	5. 柔道着と用具 5.1 柔道着 5.1.2 両アスリートの区別のため、主催者が様々なサイズで用意した青と白の帯を腰部に締める。試合中、アスリートは他の帯を締めてはならない。

